



3
月

パストラル尼崎

弥
生

No153, 2025(R7)年2月25日
〔編集・発行〕
パストラル尼崎
尼崎市潮江1丁目10-2
Tel. 06-6493-0521
Fax. 06-6493-0301
発行責任者: 竹田 憲之

◆3月の歳時記◆

『卒業式』によせて



3月は卒業式のシーズンですね。今やこの時期の風物詩ともなっている京都大学の卒業式。卒業生が「くだおれ太郎」や奈良の「せんとくん」「ドナルドダック」など時代を反映した派手なコスプレでモーニング姿の学長から賞状を授与されるシーンは毎年テレビに映し出され、思わずクスッと笑ってしまうのですが、全国には他にも伝統の卒業式があります。岐阜県高山市、斐太高校で70年以上も続く「白線流し」。これはテレビドラマにもなり一躍脚光を浴びました。卒業式に、学生たちが学帽の白線とセーラー服のスカートを一本に結んで大八賀川の清流に流すというのですが、川を挟んで、校舎側に並んだ在校生が『送別歌』を歌い、対岸に並んだ卒業生が『巴城ヶ丘（はじょうがおか）別離の歌』を歌いながら、一本につないだ白線を流すという伝統行事です。実際に見た事はありませんが、情景を思い浮かべるだけでも感動してしまいます。

一方で楽しみにしていた『卒業式』を迎えられなかった子どもたちもいます。西宮市の三木幸子さんの体験談「消えた卒業式」から（抜粋）

「まだ雪の残る琵琶湖北西部の疎開地に、大阪市立西天満国民学校長の水川先生から、まだ二十歳の新任教師だった担任の北口先生に手紙が届きました。『せめて卒業式だけは学校から卒業生を送り出してあげたい。北口先生は前日の三月十三日に六年生をつれて大阪に帰り、子どもたちを各家庭に帰してあげて下さい』という嬉しい内容でした。六年生は大喜び毎晩楽しい夢ばかり見てその日を待ちました。（私は縁故先疎開で兵庫県揖保郡御津村へ現たつの市に一人で疎開していました。）三月十四日の卒業式のため、六年生は朝早く北口先生と出発し午後には大阪駅に到着しました。『じゃあ、明日、卒業式で会いましょうね』出迎えの母さんと生徒たちを見届けて北口先生も自宅へ帰りました・・・その夜、何百機ものB29爆撃機が大阪方面に攻めて来ました。昭和二十年三月十三日の「大阪大空襲」です。破壊尽くされた大阪市街は一晩中燃えていました。夜が明け、北口先生は死体で埋め尽くされた街を歩き続けやっと学校に辿り着きました。先生は静まり返った廊下の積み重なった死体を一人ひとり確認しながら子どもたちを探しましたがわかりませんでした。先生は卒業証書を胸に抱いたまま待ち続けました。しかし卒業証書をもらいに来た子は一人もいませんでした。夕方になり夜になりました。それでも待ち続けました・・・昭和二十年三月十四日の卒業式は戦火の中に消えてしまったのです。」

食品スーパー「尼崎の陣」

最近、近隣で何やら馴染みのないスーパーの名前が続々と聞かれますね。「ロピア」「オーケー」

「バロー」これって全て関東圏から襲来した黒船軍団？と言われています。これを迎え撃つのは関西圏のスーパー。そういえば28日に閉店する潮江の「阪急オアシス」の後にはこの「バロー」が出店する予定のようです。近隣の「平和堂」「マルハチ」などはどのような戦略をたてているのでしょうか。汗

さて、昨年末、関西初「オーケー」の1号店がオープンした東大阪市、350m以内に関西代表の「ライフ」「万代」、少し離れて「マルハチ」などがあり、まさに激戦区への参入でした。この「オーケー」、生半可な決意で関西に出店したのではなく、悲願ともいえる出店でした。2021年、「関西スーパー」の買収をめぐり阪急百貨店やイズミヤ、阪急オアシスなどを傘下に抱えるH2Oリテイリングと争奪戦を繰り広げるも裁判で破れたあと、自前で関西進出を準備。ついに初出店にこぎつけた経緯があります。並々ならぬ執念を感じます。今後も進出の手を緩めない関東勢。長らく同じメンバーで争っていた関西圏のスーパーたちも戦々恐々でしょう。食品スーパーも戦国時代に入ってきたかもですね。

※【話題の“パス尼”情報】※

- 先日、初めての『俳句同好会』が開催。句会方式で始まった会はとても興味深く、「なるほど～」と感心しきりでした！こうして上達していくのですね。
- ひな祭りに向け、今回も『折紙同好会』の皆様がお雛さまの作品を企画から製作まで全て担って下さいました。いつも愛らしく温かみのある作品に癒されます。

パストラルシニア大学

第10回&「卒業式」

「アクティブシニアでいるために
いつまでも楽しく元気に」

●同時開催『血管年齢測定』

・日時: 3月14日(金) 14時

近畿ヤクルト総務統括部
比嘉 彩乃 氏

